

### 7～9月期の業況は改善

#### 【特別調査】 「中小企業におけるデジタル化とキャッシュレスへの対応について」

#### 【調査要領】

調査時点：2024年9月上旬

調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社

調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査

調査企業数：103社

調査票回収：103社

調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (ディフュージョン・インデックス) による分析  
景気の前向き感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

〈例〉

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (DI) 25

#### 回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

## 全業種総合

### ～景況感は上昇～

2024年7～9月期（今期）の業況判断D.I.は△6.8と、前期比14.6ポイント上昇した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が4.9ポイント上昇し、「悪い」と回答した企業が3.9ポイント低下したことによる。

前年同期比の売上額判断D.I.は12.6と前期比14.5ポイント上昇した。同収益判断D.I.は0.0と前期比22.3ポイントの上昇となった。業種別の業況判断D.I.は、卸売業、小売業、建設業が上昇した一方、製造業は低下、サービス業、不動産業は横ばいとなった。

全国の業況判断D.I.は△5.6と前期比2.2ポイント上昇、兵庫県では△4.2と同1.3ポイント上昇した。



#### 【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

業種名	2024年4～6月	2024年7～9月	2024年10～12月 (見通し)
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

### ～販売価格判断D.I.は低下・仕入価格判断D.I.は上昇～

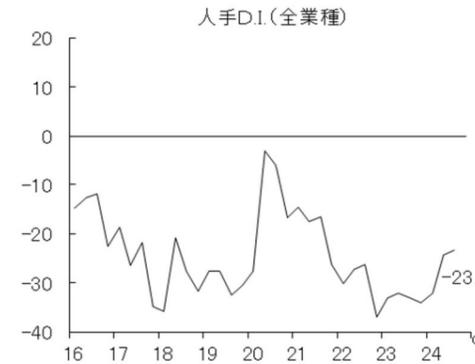
販売価格判断D.I.は18.4と前期比2.0ポイント低下した。仕入価格判断D.I.は41.7と前期比1.9ポイント上昇した。

### ～資金繰り判断D.I.は全体では横ばい～

資金繰り判断D.I.は△11.7と、前期比横ばいとなった。業種別では、不動産業が40.0ポイント上昇した。製造業が前期比3.1ポイント、卸売業が同9.1ポイント低下した。小売業、サービス業、建設業が横ばいとなった。

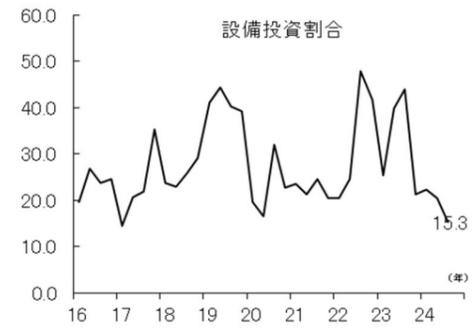
### ～人手過不足判断D.I.は、人手「不足」感が弱まった～

雇用面では、人手過不足判断D.I.が△23.3（マイナスは人手「不足」超）と前期比1.0ポイント上昇し、人手「不足」感が弱まった。残業時間判断D.I.は△0.0と、前期比2.0ポイント上昇した。



### ～設備投資実施企業割合は低下～

設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は15.3%と、前期比5.1ポイント低下した。



### ～来期の景況感全体では実績比上昇の見通し～

来期の予想業況判断D.I.は1.9と今期実績比8.7ポイントの上昇を見込んでいる。

業種別の予想業況判断D.I.は、製造業が同15.6ポイント、小売業が同11.7ポイント、サービス業が同15.8ポイント、不動産業が同60.0ポイント上昇、卸売業が今期実績比36.4ポイント低下、建設業が横ばいとなる見通し。

#### <経営上の問題点>

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が35%、「人手不足」が30%、「人件費の上昇」が28%と多く、その他では「原材料高」が24%、「利幅の縮小」が21%となった。

#### <当面の重点経営施策>

当面の重点経営施策としては、「人材を確保する」が43%、「販路を広げる」が41%、「経費を節減する」が38%と多く、その他では、「教育訓練を強化する」が15%、「情報力を強化する」が12%、「提携先を見つける」が10%となった。

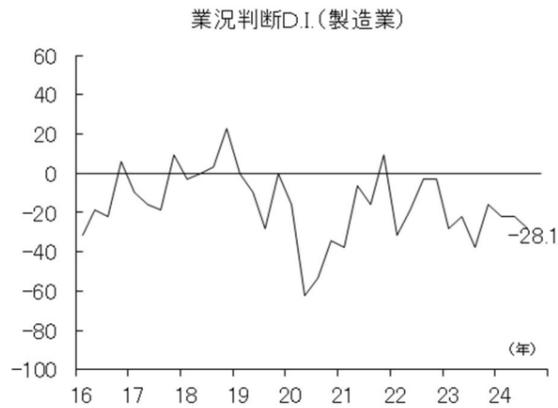
#### 経営上の問題点

順位	全業種	件数	割合
1位	売上の停滞・減少	36	35%
2位	人手不足	31	30%
3位	人件費の増加	29	28%
4位	原材料高	25	24%
5位	利幅の縮小	22	21%

#### 当面の重点経営施策

順位	全業種	件数	割合
1位	人材を確保する	44	43%
2位	販路を広げる	42	41%
3位	経費を節減する	39	38%
4位	教育訓練を強化する	15	15%
5位	情報力を強化する	12	12%
6位	提携先を見つける	10	10%

## 製造業



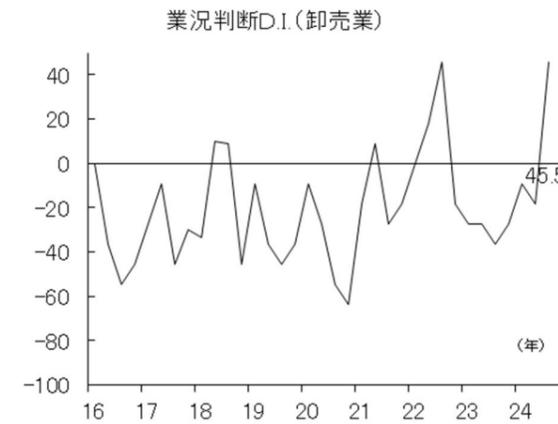
### ～製造業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は $\Delta 28.1$ と、前期比 6.2 ポイント低下した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 3.1$ と前期比 18.8 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は $\Delta 15.6$ と前期比 31.3 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 28.1%と、前期比 9.3 ポイント上昇した。資金繰り判断 D.I.は $\Delta 3.1$ と、前期比 3.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は、 $\Delta 6.3$ と前期比 12.5 ポイント上昇した。来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 12.5$ と今期実績比 15.6 ポイント上昇を見込んでいる。

## 卸売業



### ～卸売業の景況感は上昇～

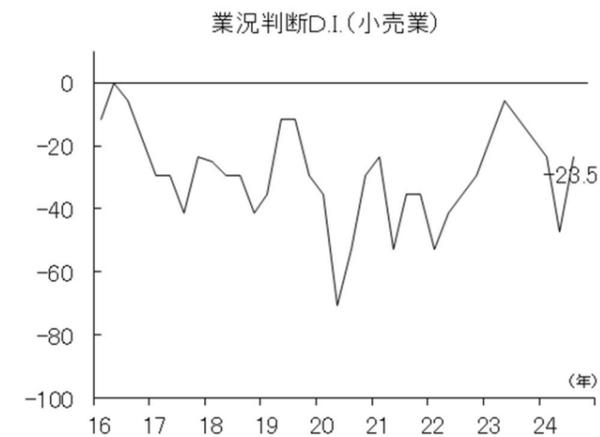
今期の業況判断 D.I.は 45.5 と、前期比 63.7 ポイント上昇した。

前年同期比売上額判断 D.I.は 45.5 と前期比 27.3 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 18.2 と前期比 27.3 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 9.1$ と前期比 9.1 ポイント低下、人手過不足判断 D.I.は 9.1 と前期比 27.3 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は 9.1 と、今期実績比 36.4 ポイント低下を見込んでいる。

## 小売業



### ～小売業の景況感は上昇～

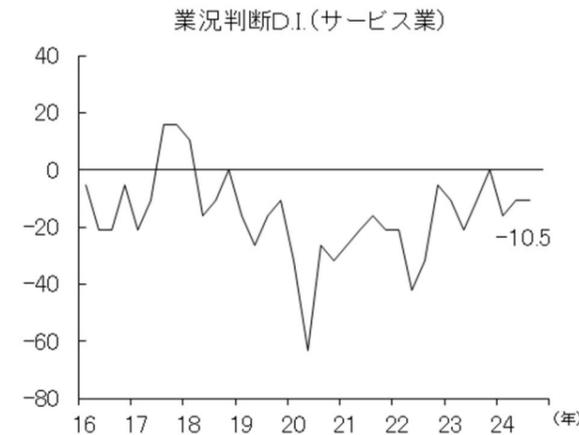
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と前期比 23.6 ポイント上昇した。

前年同期比売上額判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と前期比 35.3 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は $\Delta 23.5$ と前期比 5.9 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 35.3$ と前期比横ばいとなった。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 41.2$ と前期比 17.7 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。

来期の予想業況判断 D.I.は $\Delta 11.8$ と今期実績比 11.7 ポイント上昇を見込んでいる。

## サービス業



### ～サービス業の景況感は横ばい～

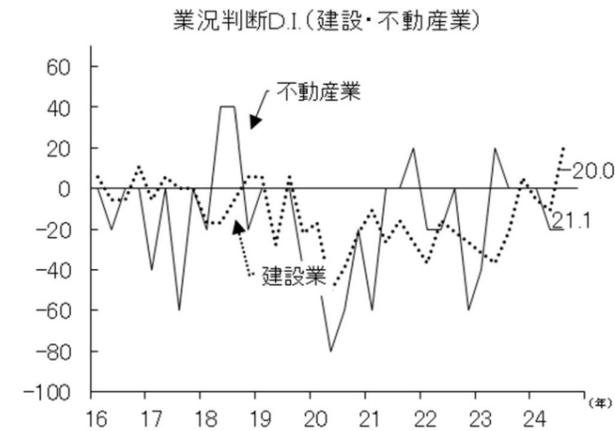
今期の業況判断 D.I.は $\Delta 10.5$ と、前期比横ばいとなった。

前年同期比売上額判断 D.I.は 15.8 と前期比 5.3 ポイント上昇した。収益判断 D.I.は 5.3 と前期比横ばいとなった。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 21.1$ と前期比横ばいとなった。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 36.8$ と前期比 10.5 ポイント低下し、人手「不足」感が強まった。残業時間判断 D.I.は 15.8 と、前期比 21.1 ポイント上昇した。

来期の予想業況判断 D.I.は 5.3 と、今期実績比 15.8 ポイント上昇を見込んでいる。

## 建設業、不動産業



### ～建設業の景況感は上昇～

今期の建設業の業況判断 D.I.は 21.1 と前期比 31.6 ポイント上昇した。前年同期比売上額判断 D.I.は 42.1 と前期比 52.6 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 21.1 と前期比 42.2 ポイント上昇した。受注残判断 D.I.は 36.8 と前期比 26.3 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は $\Delta 5.3$ と、前期比横ばいとなった。人手過不足判断 D.I.は $\Delta 47.4$ と、前期比 10.6 ポイント低下した。来期の予想業況判断 D.I.は 21.1 と、今期実績比横ばいになると見込んでいる。

### ～不動産業の景況感は横ばい～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は $\Delta 20.0$ と前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断 D.I.は 40.0 と前期比 20.0 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 40.0 と前期比 60.0 ポイント上昇し、資金繰り判断 D.I.も 20.0 と前期比 40.0 ポイント上昇した。在庫過不足判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.は 40.0 と、今期実績比 60.0 ポイントの上昇を見込んでいる。

## 調査員のコメント

**製造業**：夏場は受注が減少したが、12月以降に受注上昇の見込みである。

**卸売業**：売上が好調であるが、在庫が不足しており調達に苦慮している。

**小売業**：売上確保のため、ネット販売の体制づくりとインターネットバンク等の利用も開始し始めているが、一方で、仕入れ価格の高騰を販売価格に転嫁するのが難しい。

**サービス業**：キャッシュレス決済を増やしており、売上は順調であるが、技術者と若手従業員が少ないのが課題である。

**建設業**：昨年より売上は順調であるが、従業員の高齢化と若手従業員の確保と教育が当面の課題である。

**不動産業**：住宅資材の高騰から、不動産の流通は良くない状況にあり、同業他社との競合が激化している。